「做炭坑」 ― 炭鉱夫たち

猴硐、それは特色のある炭鉱の町です。基隆河の上流と中流の間に位置しています。ここの河川は現在清く澄んでいて、夏には多くの人が遠くからやってきて、甌穴を鑑賞したり、カヌーや天然SPA等のレジャーを楽しんでいます。しかし、ここの河川はかつて黒く濁っていました。ここの空気には大量の煤塵が混っていました。ここの炭鉱夫は太陽の光が全く当らず、手を伸ばせば指も見えない地底で働いていたのです。

「做炭坑」は猴硐の人たちの炭鉱の仕事に対する通称です。坑道内には採鉱巷及び通風孔の測量に責任持つ人、「圧頭」(削炭機)を使って掘り進む、発破、石捨ての責任を負う人、相思木「撐牛槽」を使って坑道を架設して、レールを敷いたり補修したりする責任を負う人、坑内の通風や排水の責任を負う人がいました。むちろん、石炭や石を採掘する人、運ぶ人もいました。坑道の中は蒸し暑くて暗く、空気は汚れていて希薄であるため、弱いヘッドランプの光の中で、家族を食べさせていく、一家の大黒柱である男たちの願いが込められています。

做炭坑は「採掘請負」方式で、1人の「小頭」(小包頭)が1つの「脚塔」(石炭採掘巷)の責任を負い、猴硐現地の人のほかに、外地から来た炭鉱夫もそれぞれの本籍によって、石炭鉱山会社が建設した「寮仔」(飯場)に住んでいました。例えば、三座寮、五座寮、美援厝等です。当時は双溪班、礁溪班があり、花蓮から来た原住民の炭鉱夫も少なくありませんでした。寮の中は多くの小さな部屋に間仕切りされて、約2坪ほどのスペースに一家族が住んでいました。朝まだ夜が明けないうちから、共同の台所がにぎやかになり、婦人たちが手早く数が十分にないかまど

による怪我や電機設備による災害もあり、多くの炭鉱夫の家庭が頼りとなる父親を失うことになります。炭鉱の町に住んでいる人々は、「入坑して1人死ぬだけど、入坑せずにしては家族全員を死なせることになる」とよく言います。生計のため、生死は神様に預けてあります。

政府から禁止令が出されるまで、猴硐には半分の女性が坑内に入って働いていました。男たちは重労働で危険な採掘、石炭掘り、発破の責任を負っていましたが、女たちも決して楽ではなく、石炭積み、石捨てなど、箕を使って台車の中に入れ、さらに台車を脚塔口まで推して行って、天車のフックに掛けて卸頭に運んでいました。当時は夫婦一緒に坑道の中で働く割合が非常に高く、仕事はつらくて危険であっても、これは「今の利益を求める」仕事で、15日ごとに給料が支払われていました。入坑すればお金が稼げ、入坑すれば生計が維持できました。この一代の日の目を見ない仕事で、次の世代の輝く未来に希望を託していたのでした。

炭鉱を採掘の時代、猴硐の薬局に「鐵牛運功散」、「療肺散」は大人気です、鉱区で肺の病気がある人が多い、もと1日の給料を稼いだために、鉱夫たちがちゃんと病院に検査したり、治療したりする余裕がありません。その売薬を買って飲んで、一日稼げば一日の稼ぎとなる。長い時間に通風の悪くて煤塵が混じる鉱坑で働き、砂肺病はいつも鉱夫たち晩年の悪夢、数多くの人たちはただ最後の日々に一口の空気を吸い込むことだけでも精一杯であるという敗残者となった。

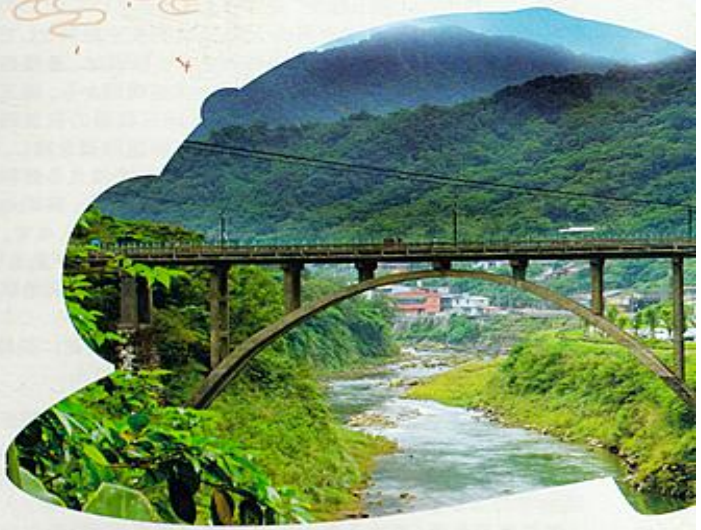
過ぎ去る列車の音、休日に懐かしく駅前のそば屋で食事する人を除き、現在の猴硐は非常に静かです。石炭採掘時代の遺跡が静かにたたずんでいます。その中には石炭の町の物語や世の移り変わりり変わりがあります。これは猴硐の宝物です。さらに台湾の重要な資産とも言えます。ですから、

黒金の歳月

猴硐を歩こう

台湾最大の炭鉱場

猴硐炭鉱博物園区



新北市政府観光旅遊局編集印刷
http://tour.ntpc.gov.tw/
2013年6月編修 広告

を順番に使って、朝食とお昼の弁当を作り、家族を仕事や学校に送り出していました。

入坑

炭鉱夫たちは朝早くから坑道の入り口に集まり、更衣室で上半身の余分な服を脱ぎ、自前の「掘仔」(つるはし)或いはPICK(鎬煤機)を持ち、一酸化炭素自主呼吸器、防塵マスタを装備して、弁当や水筒は作業袋の中に入れて、その後各斜坑の「監督」に登録して入坑札を受け取りました。そして個人の名札で電池室で充電した電池と交換し、坑道入り口の各自脚塔の小頭の所に集合しました。入坑前には、「身体検査室」でマッチ、たばこ、酒などの禁止品を所持していないか検査され、検査に合格した後入坑札を出して壁の各脚塔入坑入員表に掛けました。これが人員を管理する最も有効的な方法で、出坑時間を過ぎても入坑札か壁に掛かっていると、皆緊張し始めました。

坑道入り口で「時間車」(炭鉱夫の坑道出入りの送迎をするトロッコ)に乗り、ディーゼル機関車がゆっくり動いて主坑に入っていきます。トロッコには4人が一緒になって蹲り、暗くて冷たい空気に迎えられて、程なく斜坑の「卸頭」(斜坑口)に着き、そこで今度は「天車」(巻場げ機)のフックにトロッコを掛けてレールに沿ってゆっくり下って行きます。そしてまた斜坑に深く入った「又卸」でさらに「再卸」に入り、地底400メートルの深さまで下っていけます。坑道入り口から3-4kmの脚塔で、「炭嘴」(石炭採掘場所)を見つけます。この時はすでに入坑してから1時間あまりが過ぎています。

石炭採掘

石炭層は僅かに25~75cmの厚さしかありません。このような隙間の中で、炭鉱夫は膝をついて或いは蹲ったり、腹ばいになったりして、少しずつ石炭を掘り進めます。途中随時坑道を支える坑木を架設し、体の一部はめる時は泥水に浸ります。狭くて蒸し暑い坑道は、姿勢を変えることができません。汗と煤塵が飛び回り、採掘しているのは俗に「黒金」と呼ばれる石炭です。

命がけ

炭鉱夫は、做炭坑で稼ぐのは土地神様のお陰だ、地底で働くのも土地神様の加護に頼らなければならないものです。ですから坑道入り口の近くには大抵福徳正神が祭られています。これは炭鉱夫たちの守護神です。しかし、神様にはその力が及ばない所があり、炭鉱の災害をよく耳にします。「落嵌」(落盤)、「出磺」(ガス漏れ)、「出水櫃」(坑内の湧き水)で重大な災害が発生します。そのほかにもトロッコの衝突、爆薬の爆発

新北市政府はここに「炭鉱博物園区」を作り、観光客に当時に思いを馳せてもらい、猴硐が歩んでいた歳月を体験してもらいたいと思います。猴硐には多くのお年寄りがいます。それらの人々は皆宝物です。彼らが地底から掘り出してきた「黒金」は、かつて蒸気機関車を走らせ、発電所を運転させてきました。彼らは台湾経済発展の影の「労働者」ヒーローなのです。次回猴硐に来た時、脚を止めて彼らににっこり会釈をしておしゃべりし、この石炭の町の生きた歴史を見てみるのも良いですよ。

瑞三鉱業社

瑞三鉱業社の前身は、日本統治時代に金鉱の大物顔雲年氏の「瑞芳炭山」及び日本人木村久太郎氏と合資で成立させた「久年二坑」で、その後合併して「基隆炭鉱株式会社瑞芳三坑」になりました。1934年、李建興氏が「瑞三鉱業」を成立させて日本人の手から瑞芳三坑の採鉱権を請負い、1990年の閉山するまで、かつて台湾で最大採掘量を誇る炭鉱でした。瑞三鉱業が開発した猴硐地区の炭鉱は75年の長き渡り、李家の採鉱史は猴硐の近代史とも言えます。瑞三鉱業は猴硐で次々に猴硐坑、新坑、本坑及び復興坑を掘ってきました。鉱脈が枯れた関係から、その後主に本鉱と復興坑の炭鉱開発に力を注いできました。

多くの就職口の機会を創造した以外に、李建興氏の家族は猴硐地区に対しても少なからず建設を行ってきました。猴牡公路、介寿橋、介寿堂などです。すべて猴硐地区の住民に大きな生活上の便利さをもたらしたため、介寿橋の端には懐徳亭があり、李建興氏の猴硐地区に対する貢献を記念しています。

データソース

周章淋編集、《新北市政府瑞芳鎮猴硐炭鉱生活園区口述歴史—黒金の故郷　猴硐》、台北：新北市政府文化局、2009。猴硐陳基門氏へとのインタビュー猴硐周張謹女氏へとのインタビュー写真提供：王国綽、王趙貞秀、周朝南、李得生、陳元亮

おすすめルート

猴硐車頭頂聚落猫楽園半日コース

侯硐駅→駅の跨線橋→車頭頂聚落猫楽園→侯硐駅

猴硐自転車半日コース

侯硐駅→旧列車トンネル→炭鉱博物園区→猴硐瓏穴地質→猴三公路小中横→復興坑→運煤橋→神社→猴硐小学校→侯硐駅

金字碑と大粗坑古道半日コース

侯硐駅→猴硐小学校旧址→淡蘭古道金字碑線道→金字碑→奉憲示禁碑→102公路→大粗坑→猴硐小学校旧址→侯硐駅

交通機関

東部幹線に乗って、侯硐駅に下車

瑞芳市内で基隆客運808号バス
「瑞芳—猴硐」線、或いは826
「猴硐—水滴洞」線（休日）に乗ります。
「基隆客運0800-588010」

瑞芳市内→102県道で九份方面に向かって行き→瑞柑陸橋渡った後道標に従って猴硐に進みます。

瑞芳から猴硐まで乗車、タクシーは貸切或いは相乗り、事前に運賃を確認してください。

お問い合わせ

新北市政府観光旅遊局02-29603456
http://tour.ntpc.gov.tw/

十分ビジターセンター—02-24958409
九份ビジターセンター—02-24063270
烏来ビジターセンター—02-26616355
碧潭ビジターセンター—02-29131184
猴硐炭鉱博物園区インフォメーションセンター—02-24974143

政風窓口

郵政メール:板橋地区郵政第30－29番
TEL:(02)2969-5122
FAX:(02)2960-1544
E-MAIL:tpc018@ms.ntpc.gov.tw

インフルエンザ予防

- ワクチン接種
- マスク着用
- 手洗い慣行
- 速やかに医者へ
- 口と鼻を隠すを隠す
- 規則正しい生活
- 充分な休息

防疫ホットライン
02-2258-6923
http://www.health.ntpc.gov.tw

黒金歳月

猴硐炭鉱博物園区
炭鉱の町の新しい顔

猴硐、ここはかつて真っ暗で、山が多く風雨も多い石炭の町でした。工業革命後、台湾経済の大部分は石炭を燃料として動力源にしてきました。豊富な石炭鉱脈を有す猴硐は、基隆炭鉱株式会社直営による李建興氏の請負い採鉱時期から、瑞三鉱業がすべてを請負った時期を経て、戦後瑞三鉱業の自営時期まで計70年間、先進的な選別洗浄、石炭採掘設備を擁し、宜蘭線が開通した後、一躍して台湾の工業動力を支える燃料の重鎮となり、全台湾で最大と品質がよい石炭採掘場。猴硐地区の住民は大部分が石炭採掘のために移住してきた人々で、大量の外来者に就業機会を提供し、住民は最大で900戸あまり、6000人以上いました。この時期の猴硐瑞三炭鉱は猴硐地区の黄金時期だったと言えますが、1990年に閉山してから、ここの発展はなくなり、炭鉱産業の盛衰とともに集落も急速に萎縮して、現在では数百人を数えるほどしか残っていません。

台湾石炭産業の「生きた」歴史を守護し、猴硐の新しい顔を創造するため、新北市政府は積極的に「猴硐炭鉱博物園区」の整備を計画し、2005年から続々と炭鉱地区に関連する工場建築物等の工事を進め、古跡文物及び集落遷の跡地保存、人文と生態資源を深く有する登山古道計画や現在国家3級古跡に指定されている金字牌と奉憲示禁牌(1851年の環境保護概念碑)等珍しい古跡で、台湾唯一の「炭鉱産業生態集落」の特色ある風貌を再現しました。

03 運炭橋

選炭場の3層建築と連なって一体にになり、基隆河を跨り、高く聳えるアーチ型橋は、当地の人は元々三層鉄橋と呼んできました。1920年に宜蘭線が猴硐まで開通した時、軽便鉄道を炭鉱と駅を結んで利用するために建設されました。三層鉄橋は石炭を運ぶ以外に、人々の駅出入りの通路としても利用されました。現在目にしているのは、1965年に瑞三社が鉄筋コンクリートで再建したもので、「瑞三大橋」と呼ばれています

E121° 49' 41.1"N25° 05' 08.8"

04 猴硐国民小学校

2000年の象神台風が引起した土石流は猴硐国民小学校をほとんど壊滅してしまいました。その後員山子分水路付近に猴硐の気候及び鉱区の容貌をコンセプトにするデザインて再建されました。キャイパスには傾斜式の教室廊下があり、炭鉱石炭車の傾斜レールをイメージしています。6つの教室は互いに向き合っていて、児童数は50人あまりの小さくて可愛い、美しい学校です。

◎ 猴硐の地名の由来

「猴硐」の地名は早期に当地の洞穴にサルが集団で生息していたことから「猴洞」と名づけられました。日本統治時期は当地の住民が炭鉱採掘で生計を立てていたため、縁起を担ぎ、坑道内に水が出ることを好まなかったことから、「猴洞」を「猴硐」に改めました。1962年、政府は「猴」の字が美しくないと感じたため、再度「侯硐」に改め、台湾鉄道の駅名も「侯硐」駅に名を得ました。その後地方の名士が旧名復活を提案し、現在新北市政府は「猴硐」の地名復活を議会通過させました。台湾鉄道の駅名だけが現在もいまだ変更されていません。

以前の駅舎は日本式の質素な木造黒瓦の建築でした。駅前広場の右にはリノリウム屋根の木造建築物が並び、商人や旅行者が休む旅館でしたが、現在はレンガ造りの建築物になっています。当時の猴硐の人たちの幼い頃の情景や思い出です。「駅」に入ると蒸気機関車の汽笛が聞こえ、タイムトンネルに入ったやうで、当時の盛況が甦ってきます。「敲炭坑」の石炭掘り労働者は、ヘッドランプ、十字つるはしを下ろし、選炭、洗浄の機器が轟くような大きい音を止めています。この小さな集落には、幾多の鉱業生口の情景が残されていて、石炭採掘時期の施設、鉱業集落の生態、老炭鉱夫の記憶が風や日差しに任せ、歳月の選択の任せられてきました。新北市政府は皆さんを歴史遺跡の「猴硐炭鉱博物園区」に誘い、人文情景の集落の変遷と興亡を体験していただきます。

07 小粗坑歩道

小粗坑は鉱業の大物顔雲年氏の出世地です。清朝の光緒20年(1894年)、官府がここに砂金分局を設立させたことからも。当時の砂金取りの盛況が窺い知れます。僅かに現存している集落遺跡からは、「サンフランシスコ」の風雅な歳月が連想できます。小粗坑古道は九份頌徳公園に通じていて、山の上からは員山子分水路及び番仔澳港湾が俯瞰できます。

E121° 50' 02"N25° 05' 47

08 侯硐駅

1920年(大正9年)1月27日に、宜蘭線鉄道の瑞芳—猴硐間が開通し、駅は近く基隆炭鉱の選炭場と数本の鉄道で接していて、直接猴硐で産出した石炭を全国各地に運んでいました。1964年4月1日、猴硐の2文字は美しくないとの理由から、駅名を侯硐に改めました。侯硐駅はかつて平渓線の蒸気機関車の基地で、以前は侯硐分駐所の「藍宝宝」が順番に出発して平渓線に入る或いは瑞芳まで乗客を乗せていました。侯硐駅の駅舎、乗車券販売所、待合室、改札口はすべて2階にあり、非常に珍しい構造の駅です。

E121° 49' 37.7"N25° 05' 11' 5"

09 金字碑古道

淡蘭古道の北端二位置する区間で、三貂嶺をまたぎ、南は隆嶺及び草嶺に

猴硐スポット

01 選炭場

侯硐駅を出て右の方に黒く大きな建物があります。これは1920年秋に完成した当時台湾で最も先進的な選炭工場です。外壁に「產煤裕国/瑞三鉱業公司」と書かれた大きな字が、列車の乗客の注意を引きます。猴硐の各坑道で採掘された石炭は、当時はすべて軽便鉄道のトロッコでここに運ばれ、洗浄選別されていました。

E121° 49' 37.7"N25° 05' 11.5"

02 百階段

猴硐路瑞三福利食堂の左前方に位置し、100年余りの歴史を有す、以前九坑、100階坑、神社、寮、石炭運搬トンネル、猴硐坑、新坑に行くために必ず通った道です。元々呂という開墾農家の山道だと伝えられ、その後石を積上げて修復し、階段がちょうど100段になったことから、この名前がつけられました。その後も何回か修復を重ね、現在はセメントの階段になっています。

E121° 49' 44"N25° 05' 12"

E121° 50' 01"N25° 05' 32"

05 大粗坑歩道

有名な映画監督呉念真氏の故郷で、映画《多桑》(父さん)の発生地です。清朝光緒年間に金鉱が発見され、1971年に採掘が終了するまで、砂金取りの全盛期には200戸あまりの人々が住んでいました。住民の消費能力は高く、「リトル・アメリカ」とも呼ばれてました。かつてはある人が土のように金を扱い、金鉱をテーブルの脚に指定したという説もあります。修復された後の大粗坑古道は、徒歩1時間程度で九份に行くことができます。

E121° 50' 17"N25° 05' 20"

06 炭鉱夫宿舎

炭鉱夫の宿舎は「寮仔」と呼ばれ、猴硐には内寮仔、三座寮、五座寮、審仔寮、美援厝があり、すべて工寮(飯場)です。早期には多くが木板で間仕切りされ、壁の上に小さな穴が開いていて、そこに電球をつけて2部屋で共同使用していました。台所、浴室、トイレも共用でした。アメリカの援助で建てられた美援厝は、棟が連なった独立住宅建築で、伝統的な三合院式配置で、当時としては高級宿舎でした。

E121° 49' 29"N25° 04' 46

猴硐炭鉱博物園区

接しています。先住民が台北や宜蘭を行き来した時に必ず通る道でした。清朝の台湾総指揮官劉明灯がここに来た時、何か感じることがあって、山壁に詩を刻み金箔を塗ったため、「金字牌」と呼ばれるやうになりました。国家3級古跡です。現在古道は整備されて、大台北地区のホットなハイキング・コースになっています。

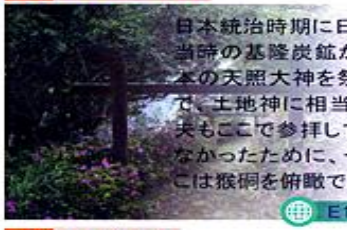
E121° 50' 12.5"N25° 05' 27.0"

10 瑞三本坑

「瑞三本鉱」のことで、日本統治時期(1940年)に開かれました。瑞三社で最大採掘量の鉱坑でした。本坑内部は1、2、3、5の斜坑に分かれていて、最も遠い「5社坑又卸」の末端は、坑道入り口から4,572メートルあります。坑道入り口には、本鉱事務所、身体検査室、浴室等があって、現在は観光客参観に備えて修復中です。

E121° 49' 49"N25° 05' 26

11 猴硐神社



日本統治時期に日本人が建立し、鳥居の石柱は当時の基隆炭鉱が寄贈したものです。神社は日本の天照大神を祭っています。大地を司る神様で、土地神に相当します。日本統治時期に炭鉱夫もここで参拝していました。現在保護されていなかったために、一部が残っているだけです。ここは猴硐を俯瞰できる絶好の場所です。

E121° 49' 45"N25° 05' 45"

12 内店仔

今日の柴寮路で、かつて採鉱時期の商店街「内店仔」です。1920年、宜蘭線が猴硐まで開通し、加えて「裕興炭鉱」の採掘も始まったことから、猴硐市街は車頭頂から「内店仔」まで南延しました。まず外地からの炭鉱夫が移住して形成されました。鉄道と基隆河の間に位置する細長い集落で、両側の宿舎の中間には通路が設置されていました。現在も通し番号が書かれた古い店の扉を見ることができます。

E121° 49' 29"N25° 05' 01"

13 復興坑

最も早く顔雲年氏が開いた「久年二坑」の東一坑で、その後「四脚亭十五坑」と名を変え、かつて2回採掘を停止しました。1964年に改めて採掘が開始された時に、「復興坑」と名づけられました。坑道入り口からは約18° の斜坑で、内部は1、2の斜坑に分かれ、1990年に閉山されました。

E121° 49' 33"N25° 04' 04"